

有権者として

日南市 井野 みずき

「今度の日曜は投票やね。」

「誰が出てると？」

「誰に入れても同じやろ～」

昨年 12 月の県知事選挙前に久々に集まった友達との会話です。

二十歳になってから何度か選挙があり、親に連れられて投票に行きました。しかし、候補者がどんな人かなんてほとんど分からないまま、投票という権利を行使してきただけ。私だけでなく、これが 20 代の若者の現実ではないでしょうか。若者の投票率を考えれば、投票するだけまだ良いのではと思う反面、「よく分からない、関心がない」で済ませてしまうことに後ろめたさも感じます。

私は昨年春に日南市役所に入庁し、県知事選では投票所の選挙事務と開票作業に携わりました。当初は、「休みがなくなる」と不満を持ちました。しかし、実際に選挙に携わってみると、いかに選挙という行為が大切なものであるか身をもって知ることができました。投票箱の設置、投票所の安全管理、受付、投票用紙の配布などどんなミスも許されません。投票所内はシーンと静まり返ったまま、笑い声どころか、あくびさえも憚れるような重苦しい雰囲気包まれていました。投票が締め切られると、厳重に投票箱は管理され開票所へと運ばれていきました。開票作業までして私の仕事は終わりましたが、最後まで作業にあたった職員は夜遅くの帰宅だったようです。

1 日すべてが選挙のための時間でした。どうして選挙はこんなに厳密に執り行われるのでしょうか。それは世界で、日本で普通選挙が実現するまでにどれだけの厳しい道のり、闘争があったかを振り返るだけでも分かります。また、今回の県知事選で、日南市だけでも相当な額のお金が注ぎ込まれました。すべて税金です。これほどの労力と経費を注ぎ込んで行われるのが選挙です。だから当然、不正は許されません。それと同じように有権者は投票するという義務を果たさなければならないと思いました。そんな現実気付かされた 1 日でした。

ただ、候補者の主張が分かりにくい、どんな意味か分からないという指摘があるのも知っています。実際に選挙カーは名前を連呼するだけ。その声に振り

返ればいきなり「ありがとうございます！頑張ります！」と運動員たち。そんな不満を口にすると父は、「日頃から新聞を読んで、今世界で、日本で、宮崎で、日南で何が起きているのかにいつも関心を持たないからだよ」と怒られます。「外見を飾ることばかりでなく、中身、心も磨きなさい」と父は口癖のように言います。今回の県知事選挙を通じて、日頃から関心を持っていないとその場しのぎで理解できないのが選挙であり、政治であることにも気付かされました。

これからは、今まで以上に世の中に関心を持っていきたいと思います。カッコいいタレントや着てみたい洋服など以外のことにもです。何か気になることを見つけて、それを深く知ることによって表面的に知られなかった問題点が見つかるかもしれません。世界には今でも飢餓に苦しむ子供たちがおり、戦争の終わらない国もあります。その点日本、宮崎、日南は平和です。でも万全でしょうか。少子高齢化は待ったなし。人口減少はこれからが本番。日南市でも人口流出は続いています。それを食い止めるため、市長以下職員一丸となって取り組んでいます。私の働く職場は、中小企業の皆さんを支援しています。しかし、人口減で購買力が下がってくると経営は厳しくなると言わざるを得ません。そんな中でどんな有効策を打つのが問われています。

行政を動かしていくのが県知事をはじめとする市長などの首長。そして議会がチェック機能を十分に発揮することで世の中は回っていきます。そのために大事なのが有権者の投票行動です。まだまだ未熟な私ですが、行政に携わる者として、市長や議員を間近で見られる役得を生かして、友人たちに選挙に関心を持ってもらえるよう橋渡しができたらと考えるようになっています。どれだけやれるか自信はありません。でも、公務員という立場上、避けて通るわけにはいかないですから。有権者として、行政に携わる者として、私たちの未来への「一票」を増やしていきます。